

「負担の少ない移乗介助や姿勢の取り方の方法や考え方」

令和5年2月10日

ラックヘルスケア株式会社 プランニングマネージャー 松岡研太郎氏を講師にお招きし、介助者の負担軽減として生活に活かせる方法や考え方を学びました。

介助、介護の専門の方にお越しいただいて、今まで気づかなかったこと、知らなかったことなどを教えていただけて、介助する側とされる側の双方にとって、より良い方法を考えるきっかけをいただいた研修会でした。やはり「知識がないことは危険だ」と学びました。

参加者の感想

学習会で学んだこと

	移乗介護の考えの原則。重さの移動であること。人の身体を理解すること。声かけの大切さ。双方のリスク、その回避のための指針や道具を含めた環境整備。
	今までにもこのような議題で学習会が何度かありましたがいつも介助する側の負担ばかりを考えていましたが、介助される側の負担も大きいことに気付かされました。確かに息子を抱っこした時にグーッと力が入って何か訴えているように思います。抱きかかえる前に言葉かけ、身体を伸ばしてほぐしてから抱きかかえるように気をつけたいと思います。紹介して頂いた介護用具も進化してるな～と思いました。面白かったです。家をリフォームするとなると大変だし予算のことも…なかなかそう簡単に解決できる問題ではないですね。
	リフトなどの補助具を使うことが、介助する側だけでなく、される側にとっても安全だということ
	学んだことがいっぱいある中、すぐ実践してみたいことが主に3つあります。1、足や腰のクッションの当て方 2、移乗はされる方の力の中心の移動によってしやすくなる 3、声をかけることが大事なことである。

学習会について

	肢体不自由の学習会は初めて参加しました。肢体不自由の児童生徒を担当したことはなく、聞くことすべてが勉強になりました。今後の教員生活につなげていきたいです。
	計画していただき、ありがとうございます。簡潔にポイントを話されて、分かりやすかったです。将来的にですが、リフォームとなっても、どこに頼めばいいのかと思っていたので、設計工事から携わってくれる会社があると知り、実際に見せてもらえて良かったです。今後があるなら、わが子たちへのそれぞれの問題への具体的なアプローチの仕方も聞きたいです。（あと、アンケートの入力が、やりにくかったです(´_`)）
	今まで触れたことのない専門的な知識を、詳細なレジメによって分かりやすかったです。今回の知識は自分の子供に使えるものも、応用できないものもたくさんありましたが、これらの知識を人の役に立つようになりたいと思います。貴重な機会ありがとうございました。